

GREEN ニュース

行動する
環境アドバイザーの会報

第66号

環境アドバイザー連絡協議会
代表 須永 徹
平成 28 年 6 月発行



田植え体験・田んぼの生き物調査 吉井町上奥平にて

金澤文雄 (NPO 法人 ふるさと再生ネットワーク代表、環境アドバイザー)

群馬県環境アドバイザーの動き

(平成 28 年 6 月 20 日現在)新規登録 41 名

第 10 期(登録期間:平成 27 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)です。新規登録者を含め平成 28 年 6 月 20 日現在、男 180 名 女 73 名、計 253 名です。

自然環境部会 61 名 温暖化・エネルギー部会 43 名
ごみ部会 38 名 広報委員会 19 名が登録し活動されています。
送付方法、メール 128 名 封書 125 名

目次(執筆者)

表紙画像・文 金澤 文雄 氏(高崎市)

- P2 環境政策課
- P3 須永代表から、ごみ部会から
- P4 自然環境部会から
- P5 温暖化・エネ部会、館林地区から
- P6 廃棄物・リサイクル課
- P7 廃棄物・リサイクル課
- P8 イベント案内、編集後記

群馬県環境アドバイザーの皆さまへ上毛新聞社から
原稿の提供依頼がありましたので、ぜひ執筆してください！！

上毛新聞社折り込み紙 週刊「風っ子新聞」

「風っ子・環境キャンペーン」本文の「身近にできるエコ活動」執筆依頼について

掲載回数：毎月約3回発行 5月から3月まで 合計35回予定

内 容：子どもたちが自ら行える身近で具体的なエコ活動を、子ども向けの文面で原稿文字数約1600字（A4用紙3～4行程度）により紹介。

ごみの減量や地球温暖化対策など、主題は1つに絞ってください。

子ども向けですので、言葉は易しく、簡単な内容にしてください。

家族で協力して取り組めるエコ活動であれば最良です。

家族で環境のことを話し合うきっかけになるとよいと思います。

提出方法：書いていただいた原稿は群馬県環境サポートセンターへ、下記記載のFAXまたは電子メールで、担当松原までお送りください。

毎月20日締めで、受付順に上毛新聞社へ県環境サポートセンターから送付します。多数の場合は翌月に順延又は、上毛新聞社に掲載原稿の選定を依頼します。また、季節に合った掲載となるよう配慮いたします。

【文例】 平成28年5月22日 週間 風っ子新聞掲載記事

身近にできるエコ活動

地球にやさしいお買い物 — マイバッグ

「ポリエチレン（主に石油）^{ふくろ}でできているレジ袋は丈夫で水にも強いのですが、最後はごみ^{さいご}になってしまいます。最近^{さいご}は、レジ袋^ふも有料^{けんりよう}の店が増えています、ごみ減量^{かなら}のためにも必ずマイバッグ^{わす}を忘れずに持ち歩き、急な買い物でもレジ袋^{はいふ}の配布^{はいふ}を断りましょう!」

群馬県環境アドバイザー 野呂 久子^{のろ ひさこ}



守ろう緑の地球

身近な、エコへの取り組みを紹介・実践する
「風っ子・環境キャンペーン」がスタートします。

平成28年5月1日 週刊風っ子新聞から抜粋

群馬県環境アドバイザー事務局担当：松原

電 話：027-226-2827

FAX：027-243-7702

Email：ecosusumu@pref.gunma.lg.jp

環境月間によせて

代表 須永 徹

平成3年度から6月が環境月間と定められたことはご存知のことと思います。

折しも群馬県の環境基本計画(2016-2019)も発表されました。私たち環境アドバイザーとしても、この基本計画を部会活動の指針としていくことが重要ですし、最終的には地球温暖化の防止につながっているかどうかを確認しながら活動していくことが、とりわけ大事なことではないでしょうか。そして部会の活動の中で気づいた現実からの問題点や改善点などを県に提言していくことも必要です。

また、環境アドバイザーの活動は家庭や地域からの身近なところからが活動の原点ではありますが、今までの活動の中で知り得た知見について、環境問題をあまり意識していない人たちに伝えていくことも重要なことの一つです。

新しい年度に入り、それぞれの部会の活動計画の概要も固まってきたところだと思います。今まであまり活動に参加できなかった皆さんも、是非関心のある部会に参加してみてください。そして、今年度は更にみなさん自身と部会の活動が大きく広がっていくことを期待いたします。

群馬県環境基本計画 2016-2019 アドレス <http://www.pref.gunma.jp/04/e0100622.html>



ごみ部会報告

ごみ部会長 山田一朗

今年度になってごみ部会は、元気21の3階にある前橋市市民活動支援センター（Mサポ）のブースを借りて実施しています。群馬県環境アドバイザー連絡協議会が登録団体になっているので手続きが簡単で、駐車場は4時間無料となっています。今のところ、さしたる問題なく、当分はこのブースを利用させていただく予定です。さて、ごみ部会での話題の中心は、やはり全国ワースト2問題です。平成23年度はワースト2、平成24年度はワースト3、平成25年度はワースト4でした。平成26年度（平成26年4月～平成27年3月末）のデータが平成28年4月に環境省より公表されました。群馬県の一人一日当たりごみの排出量が1,051グラムで全国ワースト2だったと言うことです。ごみが全都道府県で2番目に多いと言う事になります。一番多かったのは、震災で復興途上の福島県でした。勿論、震災の瓦礫とか放射能に汚染されたごみは含まれていません。言うまでもありませんが、ごみの分類として産業廃棄物と一般廃棄物があります。産業廃棄物と言うのは、主として工場などで排出される法定の20品目で、それ以外は一般廃棄物となります。一般廃棄物は事業系ごみ（約25%）と生活系ごみ（約75%）に分けられます。産業廃棄物と全体の取りまとめは県の廃棄物リサイクル課で担当し、一般廃棄物の処理は市町村でそれぞれ担当しています。そしてワースト2と言うのは、この一般廃棄物のことです。群馬県民の一人として、この結果或いは現状をどうとらえるべきなのでしょう。

自然環境部会だより

自然環境部会長 田中 和夫

高山村共有林の手入れ作業

元の群馬県環境森林部長だった大木氏の紹介で、高山村殖産組合共有林の手入れを自然環境部会が担当するようになり8年になります。ここ1年手をつけていませんでしたが昨年秋から再開しました。

上越新幹線の大清水トンネル掘削時の土砂の処分場だったようで、組合で山桜や栗などの苗木を植えましたが十分に手入れができず放置状態だったのでこの手入れを我々がやってみてはどうかという提案でした。

会議ばかりでは仕方がないので「行動する環境アドバイザー」として一緒に「作業」できる「場」が欲しいと言う部会の要望にも沿った提案でした。

具体的な作業としては、下草刈り、葛の除去（これが一番大変）、下枝の処理等ですが、ドングリから育てた苗木を植えたり、有害外来植物（オオブタクサ）の除去なども行いました。刈払い機も使用しますが、多くは鎌や鋏を使う手作業が主体です。なにぶん山林作業専門家ではなく素人ですから。

現場はぐんま天文台から北に少し下った標高約700mのほぼ平坦な場所で爽やかな風が吹く気持ちの良い高原です。今回は7月8日（金）に作業を行います。自然環境部会員以外の方でも歓迎しますのでお問い合わせ下さい。 090-5430-6174 田中まで

写真は前回5月15日の作業で掘った長い葛の地下茎で、長さは歩測で14～15mありました。



温暖化・エネルギー部会だより

温暖化・エネルギー部会長 加藤 幸輝

皆様今日は先日 2 年ぶりに東京駅に参りました、八重洲口に外資系の大規模なホテルが林立し、かなり変貌しておりました。

その前に額の猫程グリーンエリアがありましたが付近にはかなり自転車が駐輪しておりました。5 分程眺めておりましたら 5-6 人ほどの黒いスーツのキャリアレディと見られる方がヘルメットをかぶり颯爽と自転車をスタートさせて行きました。オランダ、ドイツで朝見られる光景を思い出しました。残念ながら東京駅の前は自転車レーンがありませんが。

さて少し視点を変えたいとおもいます。

皆様は渋川から前橋、高崎を利根川沿いに東京ディズニーランドに行ける自転車道路があるのをご存知でしょうか。ある方は少年少女を率いて自転車でディズニーランドに行き途中環境教育を実施していると聞いております。



又利根川、桃木川・井野川・烏川沿いにも自転車道路が整備されており通勤通学、又休日のサイクリングにも使われております。

季節の移り変わり、自然の匂いなど感じながら自転車をこぐ、此のスピードが必要とされる時代に自動車をわすれスロースローで心の余裕を持ちながらペダルをこぐとの発想の転換を企てること提案します。

勿論エネルギー、CO2 削減にもなります。環境に優しい生活を考えましょう。

地区からの活動報告

環境アドバイザー館林地区から下記の案内がありました。皆様のご参加をお願いします。

「館林の歴史と自然環境学習会」

館林市 荒井 孫四郎

- 1、日 時：7 月 29 日（金）午前 10 時 30 分～午後 3 時 30 分頃まで
- 2、集合場所：県立館林美術館駐車場（館林市役所バスで移動します）
- 3、プログラム(スケジュール)
 - ① 多々良沼公園 入野谷湿田（美術館付近）食虫ムジナモ見学
 - ② 彫刻の小径見学 大川が運んだ内陸古砂丘と多々良沼の歴史
 - ③ 昼食 お弁当持参者はバス内で、
希望者は館林うどん（本丸）をご案内
 - ④ 浄化施設場見学（館林市職員の説明）
 - ⑤ 鶉古城や多々良沼の歴史など
- 4、主催：館林環境支援団体
- 5、費用：無料
- 6、申込期限：7 月 15 日迄
- 7、問い合わせ先：荒井孫四郎 090-3817-5330



第二次群馬県循環型社会づくり推進計画が目指すもの

群馬県環境森林部廃棄物・リサイクル課

企画指導係長 前川 浩三

1 第二次群馬県循環型社会づくり推進計画の主要な課題と対応策

「第二次群馬県循環型社会づくり推進計画」（以下「第二次循環計画」と記載します）が平成 28 年度から平成 31 年度までの 4 年間を計画期間として策定されました。

第二次循環計画は、次の①から③を主要な現状・課題としています。

- ① 世界的に資源の需要が増えている現状のもとで、必要な資源を確保すること。
- ② 群馬県の一人一日当たりのごみの排出量は多く、全国ワースト 2 位であり、特に家庭から日々の生活で排出される可燃ごみは、全国ワースト 1 位であること。
- ③ 大規模災害時に大量に発生する廃棄物を円滑かつ迅速に処理する体制を速やかに構築すること。

それぞれ全く異なるような課題ですが、対応策として共通するのは、積極的な 2 R（リデュース、リユース）を図った上で、資源を循環的に利用することが重要だということです。第二次循環計画では、次のように考えています。

上記①については、製造事業者から消費者である県民までのそれぞれの主体が連携して、ごみを発生させないよう取り組むことが必要です。リターナブル容器入りの商品や詰替え商品の選択、イベント等でのリユース食器の活用、レジ袋の有料化を含む容器包装の簡素化、マイバッグの利用、必要なものを必要なだけ購入などの取組により、資源の消費（浪費）を抑制し、資源が循環的に利用される持続可能な社会を目指します。

②については、家庭から出る可燃ごみの 30%以上が生ごみであることから、食品ロスの削減を図り、生ごみの水切り及び飼料・堆肥化などの取組を促進します。

また、布類と紙類については、合わせて 30%以上含まれていることから、分別を促進させつつ、古着については、市町村や NPO 等によるリユース事業の取組を支援します。

③については、県、市町村、関係団体等が連携して大規模災害発生時における体制の構築に取り組むことが重要です。また、災害廃棄物の処理に当たっては、分別の徹底による再生利用の向上、避難所から排出されるごみや生活ごみ（特に生ごみ）の処理については、積極的な 2 R の取組により排出の抑制を目指します。

2 熊本地震から学んだこと

5 月 19 日（木）、20 日（金）の 2 日間、熊本市を中心に災害廃棄物の排出・処理の状況を現地調査しました。

既に地震の発生から 1 ヶ月が経過し、一部の地域を除いては、収集されずに残されている災害廃棄物や生活ごみは見当たりませんでした。しかし、これらのごみは、処分されたのではなく、仮置場に移され、巨大な山となっていました。

清掃工場が被災して稼働が停止していた間に溜まってしまった生活ごみの山と、ありとあらゆる種類のごみがごちゃ混ぜとなった災害廃棄物の山とが高さと裾野の長さを競っていました。



○熊本市内の仮置場の一部。手前が災害廃棄物。奥に生活ごみの山が続いている。

同様の光景が背後にも続いている。

生ごみを含む生活ごみ等は、腐敗すると悪臭や害虫の発生による公衆衛生上の支障が生じます。このため、清掃工場の復旧後は、優先的に焼却処分を行っているとのことでしたが、処理が追いつかず、強い臭気を放っていました。

生ごみを出さない、出すのであれば最小限に、そして水切りをする又は乾燥させてから出す取組等は、平時のごみの減量対策としてだけでなく、災害時においても不可欠なものだと痛感しました。また、災害時の避難所ごみや生活ごみの減量対策として、リユース食器の活用も効果的だと思いました。

災害が起きてから、急遽、2 Rの取組を実践しようとしても、すぐにはできないでしょう。2 Rの取組を災害時等も想定しながら普及・啓発、実践し、非常時にも活かせる取組へと高めていくことが望まれます。

3 2 Rの取組の方向性

2 Rの取組が、県民の福祉の向上を目指す多様な活動とつながり、ひろがりを持って発展していくことも望まれます。

具体的には、フードバンクの活動のように、主に食品ロスの削減の取組によって得られた食料品を、生活困窮者の方への支援や学童保育のおやつ等に活用されている例を挙げることができます。

また、前橋市が平成 27 年度に実施した乳幼児品のリユース事業のように、ごみの減量対策として市民から提供された不要品を子育て世代の支援に活用している例も挙げることができます。

このようなつながりとひろがり、資源が循環的に利用されていくための原動力となっていると考えられます。

環境アドバイザーの皆様方は、日々、2 Rにリサイクルを加えた3 Rを実践し、県民への普及・啓発に取り組んでいます。

また、毎年、県と共催している「みんなのごみ減量フォーラム」では、様々な環境活動を実践している団体に広く声を掛け、団体相互の情報交換や意見交換の場として盛り上げてくださっています。

今後とも、これらの取組を充実させていただき、様々な団体の活動が相互につながり、ひろがりを持って発展し、第二次循環計画で描かれている豊かな循環型社会として実現されるよう、お知恵とお力を注いでくださるようお願いいたします。

地区からのイベント案内

伊勢崎市地区

- ① イベント名・・・クールシェア キックオフイベント2016
- ② 開催日時・・・平成28年7月2日(土) AM11時～12時
- ③ 場 所・・・スマーク伊勢崎
住所～伊勢崎市西小保方町 368
- ④ 内 容・・・クールシェアライブ&「暑い夏を乗り切る方法」



渋川市地区

- ① イベント名・・・渋川市環境まつり
- ② 開催月日・・・平成28年9月11日(日)
- ③ 場 所・・・渋川市子持ふれあい公園
住所～渋川市吹屋 658-1
(注) 昨年と場所が変わりました。
- ④ 内 容・・・3Rの推進



安中市地区

- ① イベント名・・・「安中市福祉ふれあいまつり2016」
- ② 主催者・・・安中市社会福祉協議会
- ③ 開催日時・・・平成28年9月18日(日) 9時～15時
- ④ 場 所・・・安中市スポーツセンター(安中市安中 1531-1)
- ⑤ 内 容・・・社会福祉の重要性を市民に啓発するとともに地域福祉活動の推進を図るためのステージ発表や福祉バザー、福祉関連事業等の展示。模擬店出展。会場で発生するゴミの分別、廃食油の回収



編集後記

昨年度から広報委員会に参加させていただいております。

今までグリーンニュースが手元に届いた時も、皆さんの色々な活動や情報に感心させられておりました。それも、この広報委員会の方々の努力と活動のお陰だということを遅ればせながら知った私です。

会員の皆様・・・これからも地域の情報等また広報委員会へのご参加もお待ちしております。

また、この号の2ページの上毛新聞の「身近にできるエコ活動」への投稿もよろしくお願いいたします。

GN66号 担当 野呂 久子